

令和6年10月23日

件名 アートプロジェクト高崎 2024 を 10月 26 日(土)から開催

高崎アートインキュベーション推進会議（会長：山崎 健）は、10回目となる都市型アートイベント【アートプロジェクト高崎 2024 (APT2024)】を10月26日(土)から、高崎西口の中心市街地（屋外アート展示）で開催します。

今回のテーマは、「表現のダイバーシティ 限りなく広がる多彩なアート」。これまで以上にバラエティ豊かなアート作品が登場するので、日常に現代アートが溶け込んだ、普段と違う街中の風景をお楽しみください。

県内外から約40人の作家が参加。今年も高崎駅ビルモントレー (Chocomoo、田中七星) や旭町ビル (カネコタカナオ) に巨大絵画を展示します。立体作品は、本市出身の稻わらを使った彫刻 (わらアート) 作家・松本勇馬のわらの象、スイーツデコの技術をアートに取り入れた作家・渡辺おさむの恐竜など、個性豊かな作家たちの多様性に富んだ作品を展示します。また、アートパフォーマンスも3組出演します(11月週末)。

【イベント概要】

期間：10月26日(土) - 12月1日(日)

会場：高崎中心市街地、高崎モントレー（壁面）、慈光ビル、慈光通り、大手前通りほか

主催：高崎アートインキュベーション推進会議

共催：高崎市、公益財団法人高崎財団、一般社団法人高崎観光協会

(本件に関する問い合わせ)

総務部文化課

電話：027-321-1203

表現のダイバーシティ——限りなく広がる多彩なアート

ART PROJECT TAKASAKI 2024

香書は裏面の会場案内と連絡です。

4 クリストイーナ リーコカ [Christina LYKOKA]



アーティスト。ギリシャでインテリアデザイナーとして活躍。現在はカナダトロントに住み、デジタルアーティスト、写真、ビデオ撮影、編集、3Dアニメーション、合成、サウンドデザイン等の作品作りをしている。精力的に活動し、国際的なアートフェアやフィルムフェスティバルで紹介されている。

7 渡辺香奈 [Kana WATANABE]



高崎市出身。
2003年慶應義塾大学総合政策学部卒業後、
2005年に慶應義塾大学大学院政策メディア研究科修了。
穂穂の花の絵やスペイン留学で磨かれたデッサン力で生きた猫の木炭デッサンなどを発表している。

10 柳澤顯 [Akira YA NAGISAWA]



1980年群馬県生まれ。2003年筑波大学芸術専門学院洋画コース卒業。2005年立教大学人文学部美術研究科美術専攻油彩修了。2011年同大学院博士(後期)課程修了。コンピューターや描画道具、身体の偶然性を積極的に作品に取り込んどき、無機質と有機的な性質が共存した絵画を、創的的に制作している。

14 野村亜希 [Aki NOMURA]



1992年群馬県生まれ。群馬県立女子大学美学美術史学科卒。2019年から桐生大学短期大学部アート・デザイン学科助手。自分の内面の発露を自分で肯定するのに、透明水彩から3Dプリンターまで、抽象から具象まで、自分で向き合って自分が欲しいと思う様々な作品を作る。

18 曽谷朝絵(招待作家) [Asao SOYA] 展示期間11/19まで



2006年東京藝術大学人文学院博士後期課程美術研究科にて博士号(美術)取得。2001年耐とシェル石油現代美術賞(ランプリ)、2002年VOCA展 2002 VOCA賞(ランプリ)他受賞多数。今個展として、2022年スペインガーデン・東京、2013年水戸芸術館現代美術ギャラリー茨城、2010年筑波堂ギャラリー・東京、他多数。2024年自身初の影絵作品を羽根橋浜田大前に恒久設置。

18 三塚新司 [Shinji MITSUZUKA] 展示期間11/16-17限定



スキーパーロール、ライフガード、自転車便乗センターなどなどを経て、1990年に東京藝術大学先端芸術表現専修へ一期生として入学。在学中より子供絵の伝承作家として映像関係の仕事に携わる。その後、雑誌編集者、テレビ局ディレクターを経て、2010年より作品の発表を始め「疑問の疑問」[META疑問]に基づいた作品として、巨大なバナナの皮の作品を制作する。

22 奥灘幾多 [Ikuta OKUNADA]



京都芸術大学マンガコース卒業、漫画家。
2021年「いろいろはんはんはき」で「2020年後期・第78回ちばてつや賞・一般部門」奨励賞受賞。短編『芥芽より離せて』を刊行。2022年『スタイルセレクション』にて「あ、そっか!」を不定期掲載。2023年『運命だと思った』(ヤングスペリオール新人賞・佳作)

1 渡辺おさむ [Osamu WATANABE]



2003年東京造形大学デザイン学科卒業。スイートデコの技術をアートに昇華させた第一人者として数々のTV番組にも注目される。木物そくりのカッフルで精巧なクリムやキャンディ、フルーツなどを用いた作品は海外でも注目を集め、中国、インドネシア、イタリア、ベルギー、トルコ、アメリカ、韓国などでも個展が開催され話題を呼ぶ。

4 山田沙奈恵 [Sanae YAMADA]



美術家。東京都を拠点に活動。フィールドワークを中心とした取材によって、人間と自然環境の関係性をひもとく映像作品を作成する。国内外の美術展会はじめ、映像祭等にも参加。近年の主な個展に《山田沙奈恵展 トボリア》(富岡市立美術博物館・福澤一郎記念美術館、群馬、2023)など

8 木暮美紀 [Miki KOGURE]



1967年群馬県生まれ。2004年 真下京子に師事。2014年 高島会展 ころがる金文 出品。2015年～2019年現代の書と花 出品／ライフアップスクエアアイズ。
2018年Ten.Ten2023 in 横浜赤レンガ倉庫～線のゆく～ 出品。2024年 視覚の冒險者たち 出品／高崎市美術館

11 カネコタカナオ [Takanao KANEKO]



1977年埼玉県出身。武蔵野美術大学短期大学部美術科卒業。キャラクターや記号などをシクシクし、曖昧さの中にある形の繋がり・連続していくものと並んでいくものの概念を、ストリートの視点から作品に落とし込み現実化しているアーティストのらくろにはじまり、80年代からまでの漫画への強い関心が表現に現れている。

15 馬場美桜子 [Mioko Baba]



1991年東京都生まれ。2014年多摩美術大学美術部油絵学科卒業。2016年同大学院美術研究科博士課程 漆専攻研究室 助手。日常生活の中で、道端や柳などに打ち捨てられている植物をモチーフに、それらの状態が変化し、生と死が混在するような状態をテーマに油彩を描いている。

18 矢島玲衣 [Rei YAJIMA]



2001年千葉県生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科在籍中。
映画における、暗い部屋で投影される光の面を観ることに對しての関心をもとに、物語や演出を超えて映画体験が人々に何をもたらすのかを探求している。

20 大竹夏紀 [Natsuki OTAKE]



1982年 富岡市生まれ。
2008年 多摩美術大学人文学部美術研究科アート・デザイン専攻修了。
染色の伝統技法であるぬけ染め、絣柄に染料で絵を制作する。明るくポジティブな世界観を、大女や女神をモチーフに落としこんだ作品を国内外で発表している。

22 平野薫 [Kaoru HIRANO]



モノクロ写真で見るような昔のJAZZの人たちが好きで、その気取らないアドリブのような雰囲気を絵にしたい。何も考えずにペンを動かしたら、そんなJAZZの人たちが出てくるかもしれないを考えながら描いているので、まだまだです。

2・24 Chocomoo [Chocomoo]



キノトーンが持つアロゴな未完成の美に魅了され、2008年頃から本格的に作品作りを始めたイラストレーター。音楽や絵画等の「サカルチャー」や時代背景を反映した作品を作成しながら、数々のアーバンブランドや企業の他、人気アーティストへのART提供も行う。また、国内外でアートショーやコラボレーションアイテム製作等のクリエイターフェスティバルで紹介されて活動中。

5 つちやあゆみ [Ayumi TSUCHIYI]



「音」や「触れるコト」をテーマに木材をはじめ様々な素材でインクランプ等の作品を基本1人手作業で制作。各地のアートイベント、美術館、科学館などで休憩型の展示を開催し、無印良品、ベニッセ、カリモク家具、東京ディズニーリゾートイクスピアリなど、企業とのコラボレーションも手がける。

8 小松原洋生 [Hiroki KOMATSUBARA]



1990年武蔵野美術大学短期大学部専攻科美術専攻修了。現在 桐生大学短期大学部アート・デザイン学科教授。水彩絵の具などで手描きしたものとデジタル化し、CGを使ってコンピュータ上で再構成。作品を好み出していく。再構成の過程で偶然現れる色や形をつかまえ、自身が元々表現したかったものと違った新しい表現を探している。

12 佐野広章 [Hiroaki SANO]



1972年埼玉県出身。
1999年、多摩美術大学人文学部美術研究科絵画専攻修了。
2022年、筑波大学大学院 人間総合科学研究科博士後期課程 藤原寺攻修了。
現在、日本版画協会会員、群馬版画作家協会会員、版画学会会員、芸術研究会会員。

16 キール・ハーン [Kjell HAHN]



1978年アメリカミズーリ州生まれ。2001年トルーマン大学卒業。22歳で初来日し、2013年からは群馬県桐生市鬼石でアーティスト・イン・レジデンス「シロオニスタジオ」を経営。これまで30ヵ国から約200人の外国人アーティストが滞在した。第25回(令和2年度)群馬県国際交流賞受賞。

18 今実佐子 [Misako KON] 展示期間11/19まで



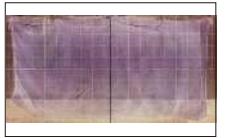
1991年東京都生まれ。2016年筑波大学人文学部人間総合科学研究科 博士前期課程修了。山紅やファンデーションなどの化粧品を使用して絵を描く。化粧とは、社会から自分を守る為の「仮面」を皮膚の上に作り上げる行為。化粧品で描いた絵を「自画像」と捉え、今日という現代社会を生きる自分自身を絵に描き写している。

20 小林望美 [Nozomi KOBAYASHI]



2003年東京生まれ。群馬県立女子大学部卒業。2016年よりモザイク表現で活動を開始。自己が保有する無意識の性情とどのように向き合っていくべきなのか。その問いに自身の経験から成る作品を介して、鑑賞者や議論や時にはむじに背景を持つ者たちとの連帯を展開していく「機会」をうむコネクターになりたいという想いで活動を行っている。

22 北村真行 [Masayuki KITAMURA]



1967年群馬県生まれ。2000年東京芸術大学人文学部美術研究科博士後期課程美術専攻(油画)修了。1998年INAX ギャラリー／東京、GALERIE SOL／東京、2000年東京芸術大学大学美術館陳列館／東京、gallery nude／群馬、他 個展多数。

3・19 金森昂大 [Kodai KANAMORI]



2000年奈良県生まれ。2024年武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。現在、東京を拠点に、日常の中に潜む懐かしさや迷いや和やかな感覚をテーマに制作活動を行う。普段は見過ごされがちな些細な不調和ややせらぎを捉え、立体物や空間を用いて視覚的に表現する。見る者に温かみや感動を感じさせてくれることによって、当たり前とされる感覚を揺さぶる作品を発表している。

6 田中七星 [Nahoshi TANAKA]



1977年、東京都生まれ。ドローイングやカラージュを中心とした制作活動。2000年、武蔵野美術大学卒業。2005年、Royal College of Art, MA修了。2007-08年、Cite Internationale des Arts滞在。2011-12年、中国美術学院中国国研修生。2023年、菅アートコンペ2023毎日放送画廊賞受賞。2006年、武蔵野美術大学バリ賞受賞。その他活動等、受賞歴等多数。

9 竹中美幸 [Miyuki TAKENAKA]



美術作家。多摩美術大学美術学部絵画学科油彩専攻卒業。桐生大学美術研究科修士課程修了。東京を拠点に活動。近年の個展に「物語はつづく」(2023年スティアセンターアートギャラリー(岐阜))、近年のグループ展に「能登能登国際芸術祭(2021-2023)」(スティア・アート・マーケット)、2020年済美術館(2020年済美術館)、2022年シエル美術館(宇都宮市美術館)、2022年シエル美術館(宇都宮市美術館)など。

13 青木恵美子 [Emiko AOKI]



1976年埼玉県生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科油画研究領域修了。2010年トヨタワールドオーベル2010年(東京都現代美術館)、を始め受賞歴多数。生命を象徴する色彩、一筆一筆の集積が花弁のような形態となり作品を作っていく。一枚といつも實に生命が宿るような画面になればと思いつき制作している。

17 柏木優希 [Yuki KASHIWAGI]



1991年静岡県生まれ。2014年武蔵野美術大学油絵学科版画専攻卒業。2016年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻版画コース修了。2020年武蔵野美術大学通信教育課程助教。現在は桐生大学短期大学部アート・デザイン学科助教を務める。

18 黒岩まゆ [Mayu KUROIWA]



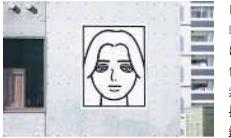
平面や立体、インスタレーションなど様々な手法で、獨特な色彩と多国籍で不思議な世界観を創作する現代美術家。近年では「人間歌謡」「多様性」をテーマに、力強い人形(ひとがた)作品を制作。絵本作家としても活動しており、絵本「うちゅうひやっかでん」(小学館)など、刺繡による作品も手がけ、ワークショップも多数開催。

21 明田一久 [Kazuhisa AKETA]



1971年高崎市生まれ。高崎市在住。1997年大阪芸術大学芸術専攻美術専攻修了。右との出会いは大学時代。選考を逃した末、右に決めた。地球の欠片を扱えるという難しさ、そして強さに惹かれたからだ。当時は在学中だけ石彫を学べたらという気持ちだったが、結局、石彫刻が面白くはまっていまる現在に至る。

22 豊田玉之介 [Tamanosuke TOYODA]



1988年群馬県生まれ。2011年信州大学教育学部芸術教育専攻美術教育分野卒業。作品を制作することは必ずしも理解されることが目的ではありません。作品を制作し発表することは実験的なプロセスであり、無表情で感情を読み取ることが難しい人物、何も描かれていない背景などの要素を組み合わせることで鑑賞者の感性を刺激することを意図して制作しています。